

十一月鹿ノ台教室誌上句会 優秀句

お題「灯り」(連記) 五十嵐千楽選

テールランプあのタクシーにあの人が 英二  
 別れの予感テールランプが遠ざかる 義雄  
 充電に帰るわが家の灯がぬくい よう子  
 こぬか雨ビニール傘に透くあかり ちさと  
 救心の助けを借りて二度三度 乃り子  
 近ごろは灯りがないと寝つけない えいじ  
 満月のあかりにつられプチ散歩 春代  
 ローソクの灯りポポツともえ尽きる 正清  
 竿灯に見ているほうがおととつと 充  
 灯り窓心残して生きてみる 宏樹  
 街の灯よ悲喜こもごもの物語 ミノル  
 恋せよとからかうような月明かり 広子  
 一隅を照らして生きた自負はある アキラ  
 行燈に終息と書く竹あかり 幸男  
 首里城の再建願い灯をともす 登美  
 秀 ふるさとに灯り届ける帰省客 哲子  
 軸 いついつまでもブルーライトヨコハマ千楽

お題「ふわり」 橘 正清選

官大工ふんわり軽いカンナ屑 乃り子  
 うたたねにふわりと掛けるちゃんちゃんこ えいじ  
 振り向けば肩にふわりと自己嫌悪 広子  
 人魂が肩にふわりとかしこまる ちさと  
 雲ふわり飄飄として夢捨てぬ アキラ  
 泥かぶる真実ひとつふわふわり 乃り子  
 チェロの音に魂ふわり離脱する 広子  
 おおきにと真綿に包みお断り 英二  
 目に染し舌もワクワクかき氷 哲子  
 身のほどを知らぬ風船はちきれる よう子  
 おだやかな日々は無言に包まれる 哲子  
 秀 胃のひだに軟着陸という妬心 ちさと  
 軸 散骨のうえにふんわりもみいづる 正清

お題「食べる」 澤山よう子選

仏壇に聞いてからするつまみ食い ちさと  
 安いGOTO食べ放題の旅に出る 幸男  
 腹八分の誓い感わすバイキング アキラ  
 まだ未練断食修行できません 充  
 食べる物ないといいつつ腐らせる 登美  
 飢えた民理解出来ないフードロス 乃り子  
 衣食住衣はユニクロで食マクド 英二

目も舌も胃にもやさしい星三つつ 哲子  
 カツ丼は食べるではなくやはり食う 英二  
 人を食う空虚なことば新総理 アキラ  
 こうこつのオスタべられて虫のさが 正清  
 秀 エリンギに松茸のもとてんこもり 正清  
 軸 バリバリとせんべいかじる倦怠期 よう子

自由吟(共選) 山神春代選

お供えに小さな歯型残されて 義雄  
 無礼講油断した君窓際へ 登美  
 外遊びどうなるだろう令和の子 えいじ  
 悔いという言葉知らずに舞う枯れ葉 アキラ  
 知って落ち知らなきや落ちぬ恋の穴 登美  
 キノコはえ書物の森にまよいこむ 正清  
 冗談の分かるスピードずれてくる よう子  
 マスク顔みーんな美男美女に見え アキラ  
 主婦返上したい日もあり米を研ぐ よう子  
 呆け知らずうそぶく父の靴が逆 宏樹  
 支えあうかたちに文字を組みかえる ちさと  
 秀 仕事終え遊び相手の無い案山子 幸男  
 軸 金婚式今年ですよね生きてれば 春代

自由吟(共選) 播本英二選

呆け知らずうそぶく父の靴が逆 宏樹  
 仕事終え遊び相手の無い案山子 幸男  
 先輩は先輩らしく民主主義 千楽  
 冗談の分かるスピードずれてくる よう子  
 けんかして仲直りして四十年 春代  
 A型と合わぬ女房添い遂げる 乃り子  
 マスク顔みーんな美男美女に見え アキラ  
 金婚式今年ですよね生きてれば 春代  
 無礼講油断した君窓際へ 登美  
 見舞客点滴をして会いに行く 宏樹  
 主婦返上したい日もあり米を研ぐ よう子  
 秀 悔いという言葉知らずに舞う枯れ葉 アキラ  
 軸 喪中はがき享年を見て安心し 英二

十二月誌上句会 投句〆十二月十日 各二句

「徳」原広子選 「忘れる」前田幸男選

「コメント」(連記) 森里えいじ選

自由吟(共選) 坪田登美選 橘正清選

\*お題「徳」 字結び可

\*メール又は封書 アキラ迄

\*書式・用紙は自由、お題・柳号記入を